

革新の風 FAX ニュース 851号

2022年9月15日

全国革新懇事務局

TEL 03-6447-4334 FAX 03-3470-1185

Eメール zenkoku@kakushinkon.org

全国革新懇がシンポジウム

統一協会と自民党政治 の癒着を問う

全国革新懇は9月14日、参議院議員会館でシンポジウム「民主主義、立憲主義をむしばむ統一協会と政治の癒着を暴く」を開き、約60人が参加しました。自由法曹団の泉澤章さんがコーディネーターを務め、パネラーとして全国霊感商法対策弁護士連絡会の阿部克臣さん、元文科省事務次官の前川喜平さん、ジャーナリストの柿田睦夫さん、日本共産党衆議院議員の宮本徹さんが発言しました。主催者あいさつは、全国革新懇代表世話人の杉井静子さんがおこないました。



憲法 24 条否定の家族観で自民党と共鳴 杉井静子さん

自民党の「点検」によっても、国会議員の約半数が統一協会と関係があることが分かりました。しかし、最も親密だった安倍元首相について調べないというのでは、組織的なつながりはあいまいなままになってしまいます。統一協会は勝共連合と一体になって、選挙では反共謀略ビラをまくなどして自民党を応援してきました。家族・家庭の問題では、戦前の家父長制的な家族観を前提として、憲法 24 条を否定し、同性婚や夫婦別姓にも反対してきました。そうした点で自民党の一部の勢力と家族観がぴったり合って活動してきたのです。今日は、統一協会の弊害を暴き、民主主義を前進させるために私たちは何をなすべきかについて議論したいと思います。

「信仰しない自由」の重大な侵害 阿部克臣さん

法的に見た場合、統一協会のどこが問題かといえ、裁判では①勧誘などの手段②目的③結果が社会通念上許されるかどうかで判断します。宗教団体・統一協会であることを隠して勧誘することが問題。そうしてビデオセンターなどで信じ込ませてしまうと、脱会が容易ではありません。「信仰しない自由」への重大な脅威であり、これは信教の自由を侵害するものです。通常宗教の目的は魂の救済ですが、統一協会の目的は財産の収奪と加害者の再生産。結果として、家族との関係断絶を招いてきました。名称変更は、こうした正体隠しに拍車をかけましたし、政治家との癒着は人々への接近を容易にした点で悪影響は明らかです。



解散命令を出し、反カルト法の検討も 前川喜平さん

2015年の名称変更について、当時の文科省幹部の序列からして、名称変更を認めてこなかった前例を覆せるのは大臣しかおらず、下村博文氏によるものだろう。統一協



会や神道政治連盟、モラロジー研究会などの宗教右派は政治と教育政策、ジェンダー政策をゆがめてきました。例えば、統一協会の合同結婚式は、「性の自己決定権」とは相反するものです。それにしても不思議なのは、なぜ夫婦別姓に反対するのかです。教組だった文鮮明氏と妻は別姓ですよ。解散命令を出せるかどうかの問題に関しては、私は可能だと思います。解散といっても、宗教法人としての法人格を取り上げるだけで、宗教団体として活動することは可能だからです。併せて、フランスのような反カルト法で彼らの行為を犯罪として罰することも検討の余地があるのではないのでしょうか。

革新自治体つづいて自民党に協力 柿田睦夫さん

一連のジェンダー問題に統一協会が反発するのは、文鮮明氏に選ばれて清められた女性が子どもを産むことで人類が救済されるという特異な教義が元にあるためです。同性婚なんて許されないわけで、ジェンダー平等が進むのは彼らにとって死活問題なのです。



彼らのもう一つの顔が勝共連合です。サタンの共産党を地上から一掃するという考え方に自民党は利用価値を見出しました。選挙応援と秘書の送り込み、訪韓ツアーがその手口です。実際、1970年代に進んだ革新自治体をつぶすため、大量のデマ宣伝などで威力を發揮しました。組織票はせいぜい10万票とはいえ、ピンポイントで効果の上がる参院選比例区で安倍元首相が票の割り振りを行っていたことにもっと注目すべきでしょう。最近では地方議会に浸透していますが、彼らに常設の組織はなく、過大評価はしなくてもいいでしょう。



率先した安倍元首相を限界まで調査すべき 宮本徹さん

共産党の統一協会追及チームとして、①被害の救済と根絶②政治とのゆ着の一掃③行政をゆがめた疑惑の究明一に取り組んでいます。まずは宗教法人として解散命令を出す必要があります。その上で、消費者被害の救済



と同様、違法な献金に対処できるようにする、弁護士などとの協力で相談窓口をもっとつくることです。自民党による「点検」だけで4割もの議員が関係を持ったのは、安倍元首相が率先して関係をつくっていたからで、その辺りを「限界」まで調べるべきです。今回の問題で一点だけよかったと思えるのは、国会で野党の合同ヒアリングが復活したこと。野党共闘が再構築されつつあるのは、よかったと思います。

会場からは「文鮮明氏は反日的なことを言ってきたのに、なぜ日本の保守層とつながれたのか」「現行法でどこまで対処できるのか」などの質問が出されました。「文氏の言葉が書かれている教義を翻訳する際、反日的な部分が削除されているし、日本の保守層はそこまで興味を持ってなかったのではないか」（阿部さん）、「現行法の枠内で対処できることは多いが、加えて、宗教法人格を外した後の不法行為に対処する必要も出てくる」（宮本さん）などパネラーをまじえやり取りしました。コーディネーターの泉澤さん（写真）は「統一協会と政治のゆ着が民主主義をむしばんできました。まだまだ私たちにはできることがある。これからもこの問題での集会など活動に取り組みましよう」と参加者へ呼びかけました。



シンポジウムはユーチューブで視聴できます。ユーチューブで「全国革新懇チャンネル」と検索。または次のURLからご覧ください。
<https://www.youtube.com/channel/UCeQljYOJmAuO7qdbObXT-gg>